

『颯々』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

(1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。

(2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

## 子どもたちの教育は地域全体で担う !!

### 第18回 南都留地域教育フォーラム

南都留地域教育推進連絡協議会（会長：渡邊綱男船津小学校長）は、11月2日(月)に富士吉田市立下吉田中学校・下吉田コミュニティーセンター・南都留教育会館において「平成27年度南都留地域教育フォーラム」を開催しました。

今年度は「『子どもたちの教育は地域全体で担う』～みんなで育む地域連携・地域交流～」をテーマに、全体会及び7つの分科会を実施。当日は地域の子どもの育成に関わる各団体から約330名が参加しました。

全体会の基調提案では、「子どもたちが安心して学べる環境づくりと、心身共に調和のとれた子どもたちの成長を願い、本日ご参集の様々な立場の皆様からの提言をいたさずには新たな『連携活動』を創造する」ことが

提案されました。アトラクション「光っ子ステージ」では、都留市四日市場生出神社神楽保存会に皆様による「子ども神楽」が披露されました。厳かな中にも子ども達の清々しい神楽の舞に会場の方々も温かな拍手を送っていました。

当日は、公私ともにお忙しい中、教育フォーラムにご参加いただきありがとうございました。皆様からいただきましたご意見・ご感想が活かせるよう、今後とも「連携活動」をキーワードとする地域教育推進に生かしていきたいと考えております。今後もお力添えをいただけますようお願いいたします。



教育フォーラムの様子は、下記のアドレスからご覧いただけます。  
<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/minamituruforumtop>

## 科学の面白さを発見 !!

# 2015 わかつるサイエンスフェスティバル in 都留高 SSH

県立都留高等学校(志村憲一校長)と北都留地域教育推進連絡協議会(会長：江口英雄上野原市長)は、10月10日(土)に都留高校80周年記念館鶴聲ホールにおいて「2015 わかつるサイエンスフェスティバル in 都留高 SSH (スーパー・サイエンス・ハイスクール)」を開催しました。

参加対象は南北都留地区の小学生とその保護者で、75組150名の定員に対して204組431名が希望していただきましたが、年々人気が高まっています。(昨年度は、157組355名が希望しました。)選考の結果、当日は児童・保護者合わせて172名が参加しました。



地域の児童のみなさんに、科学の実験、観察を通して、その「楽しさ、不思議さ」を体験して「科学への興味・関心」を高めてもらおうと企画した同フェスティバルは、平成17年度にスタートして今年度で11回を数えます。

開祭式に続き、前半は3つのグループに分かれて「チャレンジブース」を体験。「飛ぶ種の模型をつくろう」「トースターでキーホルダー」「はっばの水のとおりみち」の3種類の科学にチャレンジしました。後半は、「静電気で遊ぼう」「不思議なお茶はいかが?」「スライムを作ろう」など12ヶ所の「遊びの広場」で思い思いに、科学の不思議やおもしろさについて学ぶことができました。

実験の指導や説明は、すべて都留高SSHの1,2年次生60名が担当。子ども達にわかりやすく、丁寧に説明していました。参加した児童・保護者からは「参加して科学のことがよくわかりました。」「科学に対する興味や知識が増え、良い経験が出来た。ぜひ続けてほしい。」などの感想が聞かれました。



## 技を磨き、心を鍛える !!

# 伊藤知治教士八段剣道教室

北都留地域教育推進連絡協議会(会長：江口英雄上野原市長)、大月市剣道連盟(佐藤芳三会長) 上野原市剣道連盟(村上晃久会長) 富士・東部教育事務所(村上憲司所長)は、11月3日(火)に大月市立猿橋小学校体育館において、「平成27年度第11回伊藤知治教士八段剣道教室」を開催しました。

大月市出身の伊藤知治先生は、現在警視庁名誉主席師範であり、また企業や大学の剣道部師範として後進の指導にあたられています。同教室は「子どもたちとの稽古・ふれあいをとおし、剣道に精進すること、技や生き方に目標をもつことができる機会とする。」ことを目的に、今年で11回を数えます。当日は、大月市・上野原市などから豆剣士や中学校・高校の剣道部員、関係者を合わせて約110名が参加。

伊藤教士はあいさつの中で、「剣道の精神を日常生活にも生かし、謙虚・素直・集中力・思いやりの心を忘れずに、がんばって欲しい。」と話されました。参加者は約2時間にわたり、剣道に臨む心構えや実技練習についてきめ細かい、熱心な指導を受けました。

全体指導のあとに行われた代表児童生徒との手合わせでは、伊藤教士の気迫と剣士達の気合いの入った姿勢に、会場全体は張り詰めた空気に包まれました。剣道教室に参加した剣士からは、「基本が大切であることを知った。」「相手に敬意を示すことの大切さを知った。」「剣道には心と技術が必要であると実感した。」「これからも日々精進、努力を続けていきたい。」等の声が聞かれました。子どもたちに夢と希望を育むとともに、互いの絆を深める有意義な一日となりました。



**交流と体験的な学習で、楽しいひととき !!**

## 青い麦の子大会



南都留特別支援教育研究会では、10月8日(木)、「児童・生徒の交流と体験的な活動を通し生活能力を高めるとともに、協力し助け合うことの楽しさを学ぶ」ことを目的に、富士スバルランド森林公園・ドギーパークにおいて「青い麦の子大会」を開催しました。「青い麦の子大会」は、南都留地域の特別支援学級に在籍している子どもたちの交流会です。

当日は、児童・生徒129名と、引率の先生113名が参加。午前中は体育館で開会式や「ふれあい集会」が行われました。ひとりひとりが元気に自己紹介をした後は、中学生の司会進行で、ピンゴ・じゃんけん列車・ダンスなどのゲームを楽しみ、他校の児童・生徒と交流を深めました。趣向を凝らした「ふれあい集会」で、緊張していた気持ちも徐々に和らいだようです。体育館内には、児童・生徒の明るい声が響き渡っていました。

午後はドギーパークに移動して、晴天の秋空のもと芝生広場で昼食。その後は、ドッグショーの見学や犬とのふれあい、ジャンボ滑り台やアスレチックなどで遊ぶなど、普段、校内では経験できない体験を、自然の中で思う存分楽しむことができました。参加者は楽しい思い出をたくさん作ることができたようです。



**少ない薪でも火力が強い調理器具を作ろう !!**

## シオジ森の学校 ロケットストーブ作り&ランチ

シオジ森の学校(小俣正次校長)では、10月3日(土)・4日(日)の両日、「ロケットストーブ作り&ランチ」を開催しました。

「ロケットストーブ」は燃焼効率が極めて高く、少ない薪でも火力が強く、しかも手軽で安全な調理器具であるため、非常時にも役立つとされています。「ロケットストーブ」という名前は、熱を送り出す部分がロケットの噴射口に似ているところからついたそうです。そのすぐれた熱効率から、「エコストーブ」の名前でも呼ばれています。

2日目の10月4日(日)には、5組の家族とスタッフあわせて18名が参加。小学生の参加者もいましたが、どの家族も協力し合いながら、それぞれのペースでロケット

ストーブを作製しました。午前中にはほとんどの家族が完成し、昼食はロケットストーブで炊いたご飯に生卵をかけて、全員でおいしく頂きました。

思ったよりは簡単に作ることが出来た様子でしたが、実際に使用してみると火力の強さに、皆驚いていました。材料費もそれほどかからず、手軽に作ることが出来るので、参加者は「自宅に帰ってさらにもう一つか二つ、作ってみよう。」「今度、自治会で作り、災害に備えよう。」などと話していました。



## あふれる子どもたちの笑顔「感謝の気持ちでおもてなし!!」 みんなで協力『すげのこまつり』

小菅小学校(鬘櫛利和校長)では、毎年9月に児童会最大行事である「すげのこまつり」が開催されます。2学期が始まると子どもたちは、村内の高齢者に招待状を書き、当日学校に来てもらえるように配布します。

9月19日(土)に行われた今年の「すげのこまつり」には、高齢者や地域の方など155人が学校を訪れ、今年も村の一大イベントとして盛大におこなわれました。

まつりのオープニングには、小菅村伝統の「大菩薩御光太鼓」を披露。その後、それぞれの学年が授業で学んだことを生かしたお店を出しました。日頃から地域で、またゲストティーチャーとして授業や太鼓でお世話になったお客さんに対して、一生懸命おもてなしすることができました。

来場者からは、「子どもたちの太鼓が上手にできていて感動した。」「家族で楽しませてもらった。」「あたたかい雰囲気、とてもよいまつりだった。」など、多くの感想が寄せられました。

子どもたちは、毎年まつりを手伝いに来てくれる東京学芸大学の学生との交流も深め、とても充実感に溢れた時を過ごせた様子でした。小菅小学校では、地域の交流・連携をより深めていく『すげのこまつり』を、今後も地域とともに歩みながら継続して実施していく予定です。



## 大自然の中で親睦を図り、友情を育む!!

### 大月市・上野原市 子ども交流会



子どもたちが、同世代や異世代との多様な人間関係を経験しながら、社会的自立に必要な主体性や協調性等を育むことは成長過程において重要なことです。

青少年育成大月市民会議(矢竹元生会長)と上野原市青少年育成会連絡協議会(吉村秀昭会長)では、大月市・上野原市の子どもたちが、野外活動などを通して交流し、親睦を図ったり、友情を育んだりすることを目的に「子ども交流会」に取り組んでいます。今年度は、10月24日(土)に県立ゆずりはら青少年自然の里で開催されました。

交流会には、小学生から高校生の児童・生徒、引率者をあわせて約50名が参加。参加者は青少年自然の里の先生方の指導のもと、午前中は自然の里周辺の山々を散策する「ウォークラリー」、午後は酒まんじゅうが蒸し上がるまでゲームを行う「酒まんじゅう作りゲーム遊び」で、地域や学年の垣根を越えて交流を深めていました。初めのうちは、なかなか打ち解けることが出来なかった参加者も、交流会が終了し解散するときには、また次に会う約束をするなど、互いに友情を育むことが出来たようです。

今回の交流会を後援した大月・上野原両市の教育委員会では、「子ども交流会」の他にも、「夏休み等子ども体験事業」「放課後子どもプラン合同発表会」「青少年育成親睦スポーツ大会」「あいさつ・声かけ運動キャンペーン」など、青少年の健全育成に向けての数多くの事業を実践しています。



学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表 !!

## ひばりが丘高等学校 **生活体験文発表大会**

県立ひばりが丘高等学校(内田大介校長)では、9月3日(木)に生活体験文発表大会を開催しました。例年、同校の学園祭「雲雀祭」で行われていましたが、今年度は学園祭とは別に、単独で実施しました。

生活体験文発表大会の目的は「学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表し、多くの人々に感動と励ましを与えること」です。当日は、各学年・クラスの代表者、昼間部・夜間部あわせて18名が、アルバイトで経験したことや高校で初めて取り組んだこと、やさしさに触れた瞬間や高校生活を振り返ってなど、自らの言葉で堂々と発表されました。

それぞれの発表からは、学業との両立を目指して懸命に努力している姿勢や、今までの生活を振り返るとともに、自分の悩みや困難を克服し、前向きに高校生活を送ろうとする生徒のみなさんの熱い想いをうかがうことが出来ました。

発表を聞いていた生徒のみなさんも、他人の生き方から学び、一人一人の違いを認め、自分と向き合うことが出来た発表会となったようです。言葉を使って意思の疎通を図ったり、言葉にして人に伝えたりすることの大切さを学ぶことができました。

また、当日は芸術鑑賞会「和太鼓ユニット～風神～」や「創作授業作品展示」も併せて行われました。



**共に学び合い、共に理解し合う !!**

## 富士北稜高等学校・ふじざくら支援学校交流会

富士北稜高等学校(宮下仁校長)と、ふじざくら支援学校(元木哲哉校長)では、様々な活動を通してお互いの理解を深めるとともに、共に助け合い、支え合っていく豊かな人間性を培うことを目的に、年間2回の交流会を実施しています。今年で12年目を迎えた交流会は、ともに両校の生徒がお互いの校舎を行き来する形で、主に体験学習を実施しています。

毎年、1回目の交流は春にふじざくら支援学校を会場に行われます。10月23日(金)には、今年度2回目の交流会が富士北稜高校を会場に行われました。交流会当日は、ふじざくら支援学校から高等部の生徒52名、富士北稜高校から各系列とボランティア委員の生徒52名、合

わせて104名の生徒が参加。両校の生徒が2人一組となって、「ネームプレート製作」「木工細工」「手作りハガキ体験」「アートフラワー」それぞれの作業に取り組みました。この交流会の特徴は、一つの作業を集団ではなく2人で手を取り合い協力しながらやり遂げるところにあります。作業を通してお互いの気持ちを思いやったり、譲り合ったりして、自然な関わり合いの中で理解し合うという心の成長を期待しています。

交流会前は「相手校の生徒とどのように対峙して良いのかわからない」という不安や戸惑いを抱く生徒が多かったようですが、実際に交流が始まると短時間のうちにお互い打ち解け、笑顔を見せ合うようになりました。また、前回参加したときの反省や課題を掲げて参加している生徒も多いようです。

作業で完成させた作品は、ふじざくら支援学校の参加者へのお土産としてプレゼントされました。お互いに理解を深め、共に生きていく仲間としての意識を高めることが出来た交流会となりました。

両校の交流会の取り組みについては、先日行われた「南都留地域教育フォーラム」において富士北稜高校福祉教養部主任坂本洋子先生からご提案がありました。

## ベトナムの魂 チンコンソンの世界に触れる！！

### ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート



小菅村・丹波山村両教育委員会では、10月21日(水)に「ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート」を開催しました。当日は、両村の児童生徒及び一般村民合わせて約150名が会場となった小菅村体育館に集まりました。

ホーチミン市の国立ボンセン劇場選抜の音楽家・舞踏家によるベトナム民族音楽や舞踊の他、「ベトナムの魂」と言われる「吟遊詩人チンコンソン」の楽曲演奏を楽しむことができ、会場に詰めかけた村民からは、「衣装がとてもきれいだった。」「珍しい民族楽器の心地よい音色に聞き入ってしまった。」などの感想が寄せられました。

また、今回のコンサートは、今もなお拡大を続けている「枯れ葉剤被害」の支援活動の一環としても行われました。

主催者は今回のコンサート開催について、「海外の音楽家や舞踏家の演奏・踊りを間近に見ることで、子どもたちには将来、世界にはばたいて活躍してほしい。また、国際交流や平和の尊さについても考えられる人になってほしい。」とコメントをしています。



## 地域での子育てや家庭教育の支援活動を積極的に推進できる人材の養成！！

### 子育て支援リーダーステップアップ講座が終了

山梨県では、山梨県立大学との協働により地域の子育てネットワークづくりのための「子育て支援リーダーステップアップ講座」を平成25年度より3ヶ年にわたって実施してきました。今年度も「子育て支援者の資質向上を図り、地域での子育てや家庭教育の支援活動を積極的に推進できる人材を養成する。」ことを目的に、6月12日(金)から合計10回の講座を開講。受講者は、家庭教育支援や発達障がい支援、「ピアカウンセリング」など毎回のテーマについて知識を深め、スキルアップを図ってきました。

最終回となった10月23日(金)のグループ自主研究発表会では、「親への支援」「子育てのいいところ探し」など、グループごとに取り組んできた研究の成果や今後の課題を発表。それぞれの視点で「子育て」について研究され、いずれも大変興味深い内容でした。

発表会後に行われた閉講式では、35人の受講者全員に修了証が手渡されました。最後に、講師の先生方から「家庭ごとで子育てやコミュニケーションの方法は異なる。それぞれの場面で子どもと保護者のコミュニケーションをサポートして下さい。」「支援リーダーとして、『課題意識をしっかりと持つこと。』『仲間と協働すること。』『確かな情報をつかむこと。』『分かりやすく伝えること。』そして『笑顔でユーモアを交えて関わること。』が大切です。」などのアドバイスをいただき、すべての日程を終了しました。

今回、受講された皆様にはそれぞれの地域や学校等において、「子育て支援リーダー」としてますます活躍されることを期待します。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。】

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841